

Philip Macnaghten

Wageningen University & Research, the Netherlands

Kazuhiro Hayashi

National Institute of Science and Technology Policy, Japan

Stephen Hughes

University College London, the United Kingdom

Erika Szymanski &
Jane Calvert

Colorado State University, the United States
University of Edinburgh, the United Kingdom

Robert Smith

University of Edinburgh, the United Kingdom

Dan Santos

Australian National University, Australia

2024.03.07 | 木 |
14:00 — 18:00 [13:30 開場]

慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎 1F
シンポジウムスペース

神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 日吉キャンパス来往舎 1F
東急東横線・目黒線・横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉」駅下車徒歩 2 分

無料 | 定員 80 名 | 日英同時通訳あり

Alternative Approaches to

Science?

— Responding to the Call to be Open and Responsible

21 世紀を迎えるにあたって採択された「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」では、科学が社会と共にあるべきことが確認された。そして、生物学における構成的アプローチの登場や人間の能力を凌駕する人工知能の開発に代表されるような、私たちの抱く生命や人間の理解を刷新する可能性を秘めた科学研究の展開を受けて、その必要性はより一層強まっている。では、そのような理想の科学のあり方はどのように実現できるだろうか。本シンポジウムでは、ヨーロッパの科学技術の研究推進枠組みで採用されてきた「Responsible」や「Open」というキーワードを切り口に、社会が求める「責任を持った科学」や「開かれた科学」とはどのようなものか、そしてそれらを実現するために私たちに今何ができるのかを考えてみたい。

お申込み



お申込人数が定員を超えた場合、お申込を打ち切ることがあります。

<https://forms.gle/5nME84Th3NaQYrKf9>

主催 | 石井・石橋基金若手研究者育成ものづくり特別事業
協力 | 日吉美術研究室

お問合せ | 慶應義塾大学工学部 見上公一 kmikami@keio.jp